① 紙で楽しむ！ひうち灘の海をつくろう！

四国中央市のプレアート体験事業ドキュメント

2023 年 8 月 23 日（水）・24 日（木）　　美術講師　松岡美江

ひうち灘の「うみのいきもの」を撚る

四国中央市基幹産業である紙製品の製造過程で出た端材等を使用し、ひうち灘の「うみのいきもの」を四国中央市の伝統工芸鈴ひきの技術”撚る”をメインにつくるワークショップを行いました

準備物　四国中央市の企業様からいただいた様々な種類の紙や水引・新聞紙・紙皿・花紙・折り紙・紙テープ・シール類・洗濯糊・絵の具・マジック・ノリ・ハサミ

テーマ
・自分たちが住んでいる地域のことを知る
・様々な素材に触れ、色んな方法に挑戦する

水引や紙芯・茶葉などの出がらしが混ざった紙・再生紙の手拭きやトイレットペーパーなどを提供していただいています。

紙漉きのように紙を溶かしたり撚ったり・・切ったり貼ったり・・色んな手法で海のいきものを作りましょう

ひうち灘って ??

みんなが住んでいる日本。日本の周りに広がる大きな海。海にはどんないきものが住んでいるだろう？「くじら！イルカ！」「お魚屋さんにもおるよ」などと海のイメージを膨らませ、ここ四国中央市にある海を問いかけます。どんな海かな？どんな生き物がいるだろう？いりこって知ってる？制作の前には、生活のすぐ近くにあるひうち灘についてみんなで想像を膨らませました。

どんな形？どんな色？魚の細かな部分までよく観察していました！

紙を溶かす

日常の中で色んな用途に合わせて使用している紙。トイレの紙はなんで水に流していいの？色が付いた紙を水に入れたら？なんで固まるんだろう？身近に溢れている不思議を科学実験のように研究しながら、子どもの「あ！」を目印に、紙を溶かして、絞ったり撚ってみたり、ひうち灘を泳ぐ小魚をつくります。

なんだか粘土遊びみたいだね！

製作の延長線上には色んな素材を使った見立て遊びが始まったり、水引の紙芯が少し解けてくる様子を観察して新たな発見に繋がっていたりしているようでした。

絵の具を垂らして染めてみる！

水に溶かした紙を平らに伸ばした魚や、紙縒りにしてたくさんの小さな魚を作る様子、粘土細工のように少し立体的になった魚などそろぞれの工夫が詰まっています！

② 紙で楽しむ！ひうち灘の海をつくろう！

四国中央市のプレアート体験事業ドキュメント

2023 年 8 月 23 日（水）・24 日（木）　　美術講師　松岡美江

うみのいきもの

瀬戸内海を誇る小魚を筆頭に近海で生息している鯛や貝、海の世界は広く深く、太刀魚や伊勢海老まで種類豊富な生き物が誕生！友だちや家族と協力し合いながら、様々な素材を組み合わせることで大きなサイズになった魚や細かなところにこだわりの詰まった魚など、それぞれが持つ興味や関心、年齢などによって多様な製作方法が見られました！

切ったり貼ったり、結んだり巻きつけてみたり、なんで外れるんだろう？繋げるには？コミュニケーションをしっかりと取りながら試行錯誤して進めていきます。

実際に触れることで、美しさと共に難しさにもぶつかります

水引　子どもたちなりに捻ったりすることで、水引をうまく利用して魚のパーツに！そんな工夫の中にあの艶やかな水引細工の技術へのスタートラインが隠されているかもしれません。

伊勢海老の足にどうだろう？

この塊もいい感じだね。

三つ編み？リボンにしてみる？

はじめに大きな画用紙に形を描き、丸や四角などの形で鱗を表現！カラフルな魚が誕生しました。

製作の過程でできることも増えたね！

1 人で何個も作る子や、グループ製作の子、パーツを分担して大きな魚に挑戦する姿も！

どんな生き物をつくろうか、お家から考えてきてくれている子も！土台を何度もやり直してみたり、素材を重ねてみたりしながら、自分のイメージに近づけていき、それは大切に持ち帰り作品になりました。

巨大ウツボに長い長い太刀魚まで、作品がどんどん巨大化していきます。

お互いに良い影響が！

何度も魚の写真を観察しにいき、折り紙やマジックを使って色や形を忠実に表現していました。

大人も一緒になって本気モード！

1日目は前半後半共に各々作品作りに没頭し、小魚から大魚まで多種多様な魚が誕生しました！活動の最後にはどんな生き物を製作し、頑張ったところや工夫したところなどを発表しました。作品を通して伝わる気持ちを大切にしながらも、言葉で伝える経験をこれからも重ねていってほしいです。

③ 紙で楽しむ！ひうち灘の海をつくろう！

四国中央市のプレアート体験事業ドキュメント

2023 年 8 月 23 日（水）・24 日（木）　　美術講師　松岡美江

ひうち灘の「うみのせかい」を創る

未就学児が製作した「うみのいきもの」を紐やダンボール等を使用し「ひうち灘のうみのせかい」を自由に造形し空間を構成するワークを行います

準備物　漁協の網・テープ類・マスキングテープ・23 日の作品

実際に使用されていた漁業の網を漁港様から譲り受け、みんなの作品をまとめる土台として利用しました。

テーマ
・多種多様な魚の展示方法を考える
・魚の成り立ちを考え、みんなで協力して製作する

8/23 に製作したうみのいきものたちを使って、うみのせかいを表現する予定でしたが、今日の参加者のみんなもせっかくなので一緒にいきものを作ろう！と盛り上がり、また乳児の子どもたちの参加もあったので、大きな紙で大胆に遊ぶ場面や、前半は小学生がつくるいきもので仲間を増やしました。

大きな紙にマジックで描いてみたり、ビリビリ破ってみたり、低年齢の子たちでも体全身を使って遊べるような環境づくり行い、そんな場面で生まれた素材を交えて親子でいきもの作りに繋げてもらいました。

アート活動そのものがうみのいきものに直結してなくていい◎偶然の形がヒレに見えたり、普段の生活の中でお魚や海などの話に繋がるようなきっかけの種になれればいいなと考えています。

予定は未定。作品作りが始まるとみんな真剣そのもの！うみのせかいをつくるまでの短い時間の予定でしたが、満足のいくところまでしっかりと製作時間を延長！それぞれの場所が小さなアトリエのように色んな材料で溢れかえりながら、あっという間に時間が過ぎていきました。みんな本当に良い顔！

発明はすぐに伝達していき、いい影響を与えてくれます。そこからまた新たな発想が加わることで世界が広がっていきます。

「良いこと思いついた！」「こうしてみようかな！「これええんちゃん」ひらめきの想いのままに、魚だった体の部分は波が押し寄せる砂浜へ変化し、小魚が泳ぐ海が完成し、机いっぱいに長い魚も誕生していました！

④ 紙で楽しむ！ひうち灘の海をつくろう！

四国中央市のプレアート体験事業ドキュメント

2023 年 8 月 23 日（水）・24 日（木）　　美術講師　松岡美江

後半戦は、8/23・8/24 両日でできたたくさんのうみのいきものを、大きな網に集合させます。当初はいりこのような小魚を想定した展示プランでしたが、立体や平面、想像を超えるようなスケール感の作品がたくさんできたので、作品に合わせて巨大は魚に合体させることになりました。水族館で見たことのあるような、小さなイワシが仲間たちと密になって泳ぐ姿を目指します！

大きく魚を縁取り、ガイドラインに合わせてポジションの目星をつけます。

まずは大きないきものから順番に配置していき、接着させていきます。

一匹一匹のクオリティが高く、亀の甲羅の描き方やクラゲの足、貝の模様など細部まで楽しそうな姿が見られます。

しこちゅ～ホールのエントランスに展示していただきました！

難しい展示にはなりましたが、ひうち灘の世界を捉えているような豊かな海を表現できたように感じます。

大人からみると、もしかしたら「自由に」つくることは難しいことなのかもしれない。しかし子どもたちは疑問と実験を繰り返すように色んな挑戦をしていき、いきものじゃない作品からも海を感じられたり、ものの捉え方の柔らかさを感じます。完成させることで、展示を通して想いを共有したい気持ちと共に、ゴールにこだわらず、形にならないことや作品が壊れてしまいそうな未熟な部分も含めて、子どもたちがこの時間の中で思い巡らせたことやできるようになったことなど、作品になるまでの過程にぜひ目を向けて欲しいです。また、子どもたちにとっても、ここで見つけた小さな発見や発想がこの先の何かのヒントにきっと繋がっていることを信じて。

紙のまちの資料館で展示しました

使用した素材も一緒に

美術講師　松岡美江　producer 三好和彦（ZNEM）